

平成 23 年 10 月 13 日

講談社 週刊現代 の取材活動に関する抗議

株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー
代表取締役 水谷暢宏

当社は、週刊現代編集部による取材活動について、

株式会社講談社	代表取締役	野間	省伸	氏
同	週刊現代発行人	出樋	一親	氏
同	週刊現代編集人	鈴木	章一	氏

に対し、以下のとおり抗議を行いました。

当社が確認したところによりますと、週刊現代の記者 A 氏が、当社所属タレントが経営する企業の監査役を務める B 氏に対し、個人的な事柄に関する取材を行うにあたって、アポイント無しで直接訪問したうえ、「よしもとから頼まれて取材をしている」と虚偽の事実を告げて本人の意に反した取材を敢行したうえ、「警察から B 氏の経歴等について説明を受けた」との明白な虚偽の事実を伝え、B 氏を困惑させつつ聞き取りを行ったとのことです。

同事実は、B 氏からの抗議を受けて当社として把握するに至ったものですが、B 氏としては、A 記者の説明が虚偽であるとわかっていたらならば取材には応じることはなかったとのことであり、不当な手段で引き出したコメントを利用した記事を掲載するということがあれば、嚴重に抗議したいし、これを差し止めたいと述べています。

名義を利用された当社としても、かような取材方法を用いた A 記者らの姿勢に強い疑問を感じるとともに、報道機関としてのモラルを著しく欠いた行動に憤慨しております。

また、週刊現代編集部の他の記者においても、最近、当社タレントの自宅や仕事場周辺などに待ち構えての行き過ぎた取材行為が目にあまり、非常に迷惑しております。この点についても、当社及び当社所属タレントは皆一様に憤慨しております。

そこで、当社は、上記三名に対し、上記取材方法に嚴重に抗議するとともに、真摯な謝罪を求め、併せて、なぜ、上記のような不当な取材活動が多発するのかについての調査結果、及び今後の同様事例の再発防止策についてもご報告いただくことを求めています。

当社としては、昨今の行き過ぎた報道や、タレントのプライバシー・私生活の平穩をあまりに軽視する不当な取材活動について、極めて遺憾に感じており、今後とも、違法・不

当な報道や取材に対しては、本HPでの意見表明や訴訟その他の法的手段を活用するなど、継続した抗議活動により、適正な報道・取材を求めて参りたいと考えております。

ファンのみなさま、関係各位には、無用なご心配をおかけすることもあるかと存じますが、引き続き、ご理解とご支援を頂戴出来れば幸甚でございます。

以 上